

一般社団法人新潟県臨床検査技師会
令和4年度通常総会議案書

期 日 令和4年5月29日（日）14時開会
会 場 新潟県公社ビル3F 会議室（Web・Zoomによる配信）
※感染防止の観点から一般会員の方はWebにてご参加ください。

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 資格審査報告
4. 議長選出
5. 議長挨拶
6. 総会役員選出
 - 1) 書記任命
 - 2) 議事録署名人任命
7. 表彰
8. 議事
 - 1) 第1号議案 令和3年度事業報告について
 - 2) 第2号議案 令和3年度収支決算書について
 - 3) 第3号議案 令和3年度監査報告について
 - 4) 第4号議案 支部提出議案について
 - 5) 第5号議案 日臨技定時総会提出議案について
 - 6) その他
9. 令和4年度事業計画および収支予算について（報告）
10. 総会役員解任
11. 議長挨拶
12. 閉会の辞

令和3年度事業報告

会長

渡邊 博昭

令和3年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響によりほとんどの会議や研修会はリモートで行ったが、令和3年12月4日（土）の会期で朱鷺メッセにおきまして第94回新潟県臨床検査学会を2年ぶりに開催し、大過なく盛会のうちに終了できた。これもひとえに講師、座長の皆様、関係各位のお力添えのおかげと実務委員一同、感謝申し上げます。

令和3年度も理事が一丸となって努力して参りましたが、至らぬ点がありご迷惑をお掛けしたと思います。しかしながら無事に会務を遂行できたことは会員の皆様のご理解とご協力によるものと改めて感謝いたします。

令和3年度の事業の概要を下記の通り報告する。

総務部

- ① 定款の確認および各種規定および手順書の見直しを行った。
- ② 表彰関係は例年度通りの事業を行った。

学術部

- ① 精度管理事業は、日臨技のシステムを使用して事業を行った。
- ② 検査研究部門活動は、日臨技助成金に対して13研修会の申請を行った。

広報部

- ① 会誌、ニュース、ホームページがそれぞれの役割を明確にして事業を行った。特にホームページは迅速な対応を行った。

1. 通常総会の開催

令和3年5月30日（日）新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、令和2年度通常総会は Zoom を用いた WEB 形式で実施された。令和2年度事業報告、同決算報告、監査報告に関して、議決書ならびに WEB 出席者において賛成多数で承認された。また、令和3年度事業計画（案）、収支予算（案）の確認もされた。

2. 会務の執行体制

1) 職務分担

令和2年度は役員任期の後期にあたったが、前年度同様に学術部、広報部、総務部の3部門に理事を配置し、各部門との連携を図りながら会務を執行した。

2) 事務局体制

事務局業務が非常に多くなっている現状で、阿部事務員の努力により諸会議の準備や日臨技・北日本支部および会員との連絡・調整役を担っていただいた。また、JAMTIS 運用による会員情報登録および変更作業を迅速に処理し、組織運営上、大変重要な役割を果たしている。

3. 諸会議の開催

- 1) 理事会 第1回 令和3年4月10日（Zoom を用いたオンライン会議）
- 第2回 令和3年6月12日（Zoom を用いたオンライン会議）
- 第3回 令和3年7月10日（Zoom を用いたオンライン会議）
- 第4回 令和3年9月25日（Zoom を用いたオンライン会議）
- 第5回 令和3年11月14日（現地開催 + Zoom を用いたオンライン会議）
- 第6回 令和4年1月30日（Zoom を用いたオンライン会議）

2) 常任理事会

定例常任理事会は、令和3年度は2回の開催となった。

3) 三役会議

急な協議事項等についてはメール等を利用し協議を行ない、特に三役会議は開催しなかった。

4) 各種委員会の開催

(1) 会誌編集委員会

新臨技会誌（季刊発行）第319号から第322号の編集業務のため、メール等を利用して実施した。

(2) ホームページ委員会

会員への情報伝達手段としてホームページの充実と運用に努めた。

(3) 検査研究部門委員会

各検査研究分野の活動計画並びに運営等を協議するため1回開催した。

(4) 生涯教育研修委員会

理事会や各支部生涯教育委員と連絡をとりながら研修会予定および参加者の登録を行った。

(5) 精度管理委員会

精度管理調査の事業計画、集計処理状況把握、検討会企画の協議のため5回開催した。

(6) 表彰委員会

各種表彰の対象者選考のため、Zoom による WEB 審議を1回開催した。

4. 組織対策

1) 入会対策

会員数の多い年代が定年を迎え会員数の減少が懸念されるが、各支部役員および各施設連絡責任者の協力により入会を勧めた。

本年度の新入会および再入会の会員数は69名。

本会の正会員総数は1,370名。(令和4年3月現在)

技師連盟入会者数は44名72口。

社会的地位向上および今後の業務拡大の為に、更に多くの会員の入会をお願いする必要がある。

2) 各支部との連携強化

各支部ともその地域性を生かした独自の活動が浸透し、年々活発化している。支部総会等に役員を派遣し、連携強化を図った。

3) 会員施設との連携強化

会員施設との連携を強化するため、施設運営管理者協議会を設置し、令和3年8月1日(日)にWebとのハイブリッド形式で令和3年度施設運営管理者協議会を開催した。現在(令和4年3月)の登録施設数は55施設である。今回の協議会では、臨床検査技師の業務拡大につながるタスク・シフト/シェアならびに臨床検査技師を目指す学生の教育に関するカリキュラムの変更と臨地実習を請け負う施設において臨地実習指導者を置く事が法律で決まった事、臨地実習指導者を置くことに向けての研修制度に関する情報を共有した。

新潟県医療推進協議会『新型コロナウイルス感染症にかかる意見交換会報告』に向け、各施設をはじめ施設運営管理者協議会登録施設からの意見集約を実施した。

5. 地域保健医療活動および公益事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、多くの公益活動は中止、不参加となったが、一時感染拡大が終息期であった令和3年11月20日(土)に、全国「検査と健康展」2021 in Niigataを開催した。毎年行っている体験型のイベントは行わず、十分な感染対策を講じながら新規で作成した12枚のパネルを使い、臨床検査技師の仕事内容についてのパネル展を実施した。

6. 求人情報

日臨技への情報登録とともに、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供した。

7. 災害関係

災害支援活動に関するマニュアルを整備中である。

8. 表彰関係(敬称略)

1) 第39回篠川至賞

学術賞部門 三好孝史(JA新潟厚生連佐渡総合病院)

学術賞部門 桑原喜久男(済生会三条病院)

2) 令和2年度功労者表彰

(1) 永年会員功労者表彰 該当者23名

(2) 特別功労者表彰 草間孝行(新潟県立津川病院)

堀川良則(新潟大学医歯学総合病院)

小柳博明(新潟県労働衛生医学協会)

3) 名誉会員 該当者なし

4) 令和元年度生涯教育履修表彰

奨励賞 斎藤直子(医療法人社団葵会 新潟聖籠病院) 680点

斎藤修(新潟大学) 440点

白川千恵子(新潟医療技術専門学校) 440点

新人賞 川上俊朗(医療法人 愛広会新発田リハビリテーション病院) 270点

9. 新型コロナウイルス感染関連

令和3年6月11日付厚生労働省事務連絡「新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種のための筋肉内注射の臨床検査技師、救急救命士による実施のための研修について」に基づき、新潟県に臨床検査によるワクチ

ン接種の実技研修の開催要望ならびに新潟市に臨床検査によるワクチン接種の実技研修の開催要望書を提出した。

新潟県医療推進協議会『新型コロナウイルス感染症にかかる意見交換会報告』に出席し、臨床検査技師の立場から要望・意見を伝えた。

学術部	副会長 桑原 喜久男
-----	------------

令和3年度は新潟県臨床検査学会、検査研究部門活動、精度管理事業、生涯教育を中心に活動をした。今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を大きく受け、検査研修部門の活動や精度管理報告会はWebを用いた研修会とならざるを得なかったが、令和2年度と比べ、Web研修会に会員が慣れ、研修会開催回数、参加者数ともに令和2年度を上回った。第94回新潟県臨床検査学会は市中に新型コロナウイルス感染症患者数が落ち着きを見せている期間に現地開催をする事が出来た。

1. 学会

桑原 喜久男

令和3年12月4日(土)に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて、田村実行委員長のもと、第94回新潟県臨床検査学会の開催をした。新型コロナウイルス感染症第5波と6波の間となり、2年ぶりの現地開催となった。開催中は3密を避け、徹底した感染管理に努め、運営は大過なく行う事が出来た。一般会員：146名、賛助会員：18名、新潟県会員：1名・学生：46名、非会員：1名合計212名の参加をいただき、一般演題、教育講演、パネルディスカッション、特別講演を開催した。また、学会内で各種表彰を行い、延期となっていた篠川至賞受賞記念講演の場を設ける事が出来た。

2. 検査研究部門

中村 岳史

令和3年度検査研究部門は、9部門6分野(生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門、臨床検査総合部門)の9部門、臨床生理部門は、神経生理分野、循環生理・呼吸生理分野、超音波分野の3分野、臨床検査総合部門は、管理運営分野、救急検査分野、公衆衛生・生殖医療分野の3分野)で組織構成され、部門構成員は最大各部門6名、各分野4名、活動費は各部門12万円、各分野8万円で運営された。今年度より、臨床検査総合部門は3分野体制をスタートさせた。

今年度、検査研究部門が開催した研修会は、合計13回であった(昨年度8回、一昨年度17回)。各部門分野別では、生物化学分析部門2回、臨床一般部門1回、臨床血液部門1回、臨床微生物部門1回、輸血細胞治療部門1回、病理細胞部門1回、染色体・遺伝子部門1回、臨床生理部門(部門として1回、神経生理分野1回、循環生理・呼吸生理分野1回、超音波分野1回)、臨床検査総合部門(救急検査分野1回)であった。今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、実地開催はせずZoomを用いたオンライン研修会での開催となった。オンライン研修会が定着し企画運営がスムーズに行われ、また、研修会開催数が増加してきたことは、ひとえに各部門の努力の賜物と思われた。

研修会の内容は、基礎的内容から専門性の高い内容のものまで会員のニーズを鑑み、企画運営されており、多くの会員が参加しやすい内容であった。今年度も、新型コロナウイルス感染状況から実技研修を開催することはできなかった。実技研修は会員からのニーズが高く、技術面の向上に寄与するため、引き続き実技研修の開催については課題の一つと考えられた。

次年度も、新型コロナウイルス感染状況を注視し、オンライン研修会開催を推進しながら、感染状況や日臨技の方針等を含め、柔軟に対応できる体制を構築していきたい。会員の声を反映し知識や技術の向上のため、会員にとって有益な学術活動を運営していく。

検査研究部門の研修会

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
生物化学分析	令和3年 7月17日(土)	専門20	45名	0名	【令和3年度生物化学分析部門研修会／第39回日本臨床化学会甲信越支部総会／第19回生物試料分析科学会甲信越支部総会】 1. 「バリデーションに必要な統計学の基礎理解」 北里大学保健衛生専門学校 臨床検査技師養成科 小林 浩二 2. 「国際的な標準化：ISO15189認定取得について」 新潟大学医歯学総合病院診療支援部 臨床検査部門 星山 良樹 3. 「R-CPC」 福島県立医科大学保健科学部 臨床検査学科 菅野 光俊 4. 「臨床化学検査と免疫検査の進歩と研究」 信州大学学術研究院保健学系 検査技術科学専攻病因・病態検査学領域 奥村 伸生 5. 「不思議な粒子：HDL研究の魅力」 順天堂大学大学院医学研究科 臨床病態検査医学 三井田 孝 ZoomによるWeb開催 *日本臨床化学会甲信越支部新潟分会と共催 *生物試料分析科学会甲信越支部新潟分会と共催
	令和4年 3月12日(土)	専門20	33名	0名	【新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門 日本臨床化学会甲信越支部新潟分会第53回研修会 生物試料分析科学会甲信越支部新潟分会第19回研修会 合同研修会】 1. 「効率的な臨床検査業務（搬送ライン等）と免疫装置」 ロシュ社 2. 「効率的な臨床検査業務（搬送ライン等）と免疫装置」 シーメンズ社 3. 「効率的な臨床検査業務（業務支援システム等）と免疫装置」 アボット社 ZoomによるWeb開催 *日本臨床化学会甲信越支部新潟分会と共催 *生物試料分析科学会甲信越支部新潟分会と共催
臨床一般	令和3年 10月9日(土)	専門20	37名	3名	【令和3年度臨床一般部門研修会（Web開催）】 1. 「ISO取得施設の尿検査の精度管理方法」 長岡赤十字病院 松雪 咲身 新潟県労働衛生医学協会 計良 政裕 新潟大学医歯学総合病院 齋藤 温 済生会新潟病院 小野 篤史 2. 「悩む…赤血球形態に光を…」 ZoomによるWeb開催
臨床血液	令和4年 1月15日(土)	専門20	75名	0名	【令和3年度 臨床血液部門研修会（新潟支部合同）】 1. 「末梢血における血液像観察のポイント」 獨協医科大学病院 臨床検査センター 新保 敬 ZoomによるWeb開催 *新潟支部との合同開催
臨床微生物	令和4年 3月13日(日)	専門20	37名	0名	【令和3年度新臨床微生物部門研修会（Web開催）】 1. 「嫌気性菌検査の基礎 ～レベル1の同定を中心に～」 極東製薬工業株式会社 営業学術部 カスタマーサクセス課 酒井 静香 2. 「嫌気性菌検査の現場でのポイント 検体採取～トピックスまで」 株式会社スギヤマケン 学術室／開発室 霜島 正浩 3. 「Clostridioides difficile 感染症 Updates ～本邦および各施設の実情に合わせた診断・治療戦略を考える～」 新潟大学医歯学総合病院 高次救急災害治療センター 番場 祐基 ZoomによるWeb開催
輸血・細胞治療	令和3年 12月18日(土)	専門20	89名	0名	【令和3年度輸血細胞治療部門研修会（Web開催）】 1. 「輸血検査の基礎」 新潟市民病院 志田 幸江 2. 「夜間当直帯の輸血対応」 オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社 イムノヘマトロジー事業本部 マーケティング部テクニカルサービス 齋藤 大輔 ZoomによるWeb開催
病理細胞	令和3年 9月11日(土)	専門20	45名	5名	【令和3年度病理細胞部門研修会（Web開催）】 1. 「新潟大学医歯学総合病院におけるがんゲノム医療」 新潟大学医歯学総合病院 遺伝医療センター 栗山 洋子 2. 「ゲノム医療コーディネーターについて」 兵庫県立がんセンター ゲノム医療・臨床試験センター 田路紗和子 3. 「がんゲノム医療と細胞診検体」 久留米大学病院 病理診断科・病理部 河原 明彦 ZoomによるWeb開催
染色体・遺伝子	令和3年 10月30日(土)	専門20	24名	0名	【令和3年度染色体・遺伝子部門研修会（Web開催）】 1. 「Ton Torrent 次世代シーケンサー 概要とがん研究用パネルのご紹介～」 サーモフィッシュャーサイエンティフィック株式会社 2. 「呼吸器パネル」 バイオメリュージュパン株式会社 3. 「FoundationOne®Liquid CDx がんゲノムプロファイルの特性について」 中外製薬株式会社 ZoomによるWeb開催
臨床生理	令和3年 6月13日(日)	基礎20	165名	0名	【生理検査基礎セミナー2021】 1. 「治療を見据えた、上室頻拍（SVT）判読のコツ!」 三重ハートセンター 診療支援部 内田 文也 2. 「日臨床サーベイからみる呼吸機能検査の基礎」 北海道大学病院 生理機能検査室 山本 雅史 ZoomによるWeb開催
	神経生理分野 令和4年 2月20日(日)	専門20	63名	0名	【神経生理検査セミナー2022】 1. 「睡眠時無呼吸症候群～現在・過去・未来」 篠田耳鼻咽喉科医院 篠田 秀夫 2. 「安定した記録を得るためのPSG装着の工夫と携帯型簡易呼吸モニターの有効活用」 太田西ノ内病院 兼田 享子 3. 「CPAPを含む呼吸管理療法について」 新潟県立中央病院 原 隆芳 ZoomによるWeb開催

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
臨床生理	循環・呼吸生理 分野 令和3年 11月7日(日)	専門20	83名	0名	【心電図セミナー2021】 1.「惑わされないための心電図攻略」 信楽園病院 臨床検査科 筒井 賢太 2.「ホルター心電図解析～ビットホールを知り解析レベル向上に繋げる～」 東京女子医科大学病院 中央検査部 心電図検査室 市川 篤 ZoomによるWeb開催
	超音波分野 令和3年 8月22日(日)	専門20	56名	0名	【超音波初級者セミナー2021】 1.「きれいな画像記録のコツと再現性の高い計測のポイント」 天理よろづ相談所病院 松谷 勇人 2.「血液検査と合わせて考える腹部エコー」 国立がん研究センター中央病院 奥井 悠友 ZoomによるWeb開催
臨床検査総合	管理運営分野 研修会実施なし				
	救急検査分野 令和3年 7月17日(土)	専門20	89名	0名	【令和2年度臨床検査総合部門研修会】 1.「救急検査はおもしろい!!～主役はあんたでっせ～」 大阪医科薬科大学三島南病院 福田 篤久 2.「苦手克服!血液ガス分析」 医療法人讃高会 高井病院 濱田 宏輝 ZoomによるWeb開催
	公衆衛生・生殖 医療分野 研修会実施なし				

3. 精度管理事業

田端 篤

本年度も新潟県から新潟県医師会への委託事業である令和3年度(第42回)新潟県臨床検査精度管理調査会を行った。技師会としても積極的に当事業に協力し、集計、解析を含めた実務の中心的役割を果たすと共に、臨床検査の精度向上に努めた。

精度管理調査事業の内容(測定項目)は以下のとおりである。

1) 臨床化学検査 ※生化学試料：冷凍試料・HbA1c 試料：冷蔵試料

グルコース (Glu)、総ビリルビン (TB)、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl)、カルシウム (Ca)、無機リン (IP)、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、総蛋白 (TP)、アルブミン (Alb)、C反応性蛋白 (CRP)、尿酸 (UA)、尿素窒素 (UN)、クレアチニン (Cre)、総コレステロール (TC)、中性脂肪 (TG)、HDL-コレステロール (HDL)、LDL-コレステロール (LDL)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)、コリンエステラーゼ (ChE)、ヘモグロビン A1c (HbA1c) の28項目。

ドライケミストリー法は本年度も無機リン (IP)、総ビリルビン (TB) を実施しますが、参加は選択可能。また、LDL-コレステロール (LDL) は実施しません。

2) 血液検査 ※血液試料：冷蔵試料

CBC 6項目 (ヘモグロビン濃度、血小板数、白血球数、赤血球数、ヘマトクリット値、平均赤血球容積)

3) 微生物検査 (同定)

試料A、試料Bにはそれぞれ1種類の細菌が含まれているので発育した菌について結果を報告。

4) 微生物検査 (薬剤感受性試験)

試料C (*Streptococcus pneumoniae*) のペニシリン (PCG)、メロベネム (MEPM)、バンコマイシン (VCM) の3薬剤について薬剤感受性試験を実施。※薬剤感受性の判定は、Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) M100-S22の基準を使用する事。

5) 一般検査フォトサーベイ

設問数は18設問、評価対象は設問1～12。

本事業を担当する精度管理委員会はコロナ禍であることから、Web会議などを中心に、全体会議を計5回開催しメールなどを用いて実施計画及び配送準備、データ集計、解析を実施した。

微生物検査は技師会が担当する一般菌1菌種の感受性と、新潟県保健環境科学研究所が担当する2菌種

の同定を合わせて実施した。

新潟県臨床検査精度管理調査における目標値の設定は従来から日本臨床化学会（JSCC）の勧告法に準じた方法、および勧告法の伝達された認証標準血清を用いて実施してきた。JSCC 勧告法は設定されて以来、多くの精度管理調査の目標値設定方法として、また市販試薬の対照測定法として用いられている。特定健診においても前述の標準物質を用いて標準化が行われていることが前提となっている。

昨年度と同様に酵素項目、濃度項目の目標値設定については、基幹施設および ISO 取得施設に別途測定依頼したデータを用い設定した。

日本臨床化学会より、アルカリフォスファターゼ（ALP）、乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）の測定方法を JSCC 標準化対応法より IFCC 標準化対応法に昨年度中に変更するように勧告されていた。今年度の調査では、ALP、LD ともに109施設（94%）より IFCC 標準化対応法で回答があり、概ね変更が完了していた。ただ、7施設（6%）が JSCC 法での回答となっており、内1施設が誤記入と思われる。昨年度中の変更が勧告されていることから、JSCC 法回答施設については評価対象外とした。

HDL コレステロール、LDL コレステロールについては、今年度も測定方法（測定試薬）により値が異なるため、できるだけ多くの測定方法（測定試薬）に目標値を設定したいと考えメーカー報告値を目標値とした。また、LDL コレステロールの試料12（市販管理血清）において、デンカ生研試薬にて測定機種により測定値に差がみられたため目標値を別設定とした。ただ、LDL コレステロールの試料12（市販管理血清）において、積水メーカー報告値と施設報告平均値に差がみられたため、施設報告値平均値を目標値として設定した。

クロール（Cl）についても電極の違いにより測定値に差がみられたため別設定とした。

HbA1c は今年度も日本赤十字社全血検体を用いたが、測定方法（測定試薬）により反応性が異なるためメーカー報告値を用いて測定方法毎に目標値を設定した。

ドライケミストリー法はマトリックスの影響を受けやすいことから、メーカー報告値を目標値とした。

評価基準は昨年と同様に目標値からのバイアスの許容誤差限界（BA）とした。ただし、評価基準は今年度も日本臨床衛生検査技師会精度管理調査に準じた。

今年度も試料11にはヒトプール血清を使用しており、アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）、クレアチニン（Cre）において低濃度となったため暫定的に評価基準を目標値 $\pm 10\%$ とした。乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）も暫定的に $\pm 5\%$ とした。また、ナトリウム（Na）及びクロール（Cl）は日本臨床衛生検査技師会精度管理調査と同様に評価B以下の基準を変更した。カリウム（K）はBAが1.9%あるが、規格の運用において、「測定値が小さく、目標値 \times BA（%）の値、あるいは目標値 $\times 5\%$ （許容誤差限界上限）の値が、日常報告している結果報告桁数の最小単位未満となる項目は結果報告桁数の最小幅の2倍を許容誤差限界とすることを推奨する。」となっていることから目標値 $\pm 0.2\text{mEq/L}$ とした。

なお、尿素窒素の ReCCS の標準物質の認証値は内因性のアンモニアを含んでいないことからアンモニア消去（回避）法以外の測定方法、測定方法未記入等は目標値の設定が不可能であるため評価対象外とした。

ドライケミストリー法はナトリウム（Na）、カリウム（K）、クロール（Cl）はドライケミストリー法以外の方法と同様の評価基準としたが、それ以外の評価項目はマトリックスの影響を受けやすいため、評価Bを1.5倍（目標値 $\pm 7.5\%$ ）に広げた。

また、集計に用いた精度管理用システム（JAMTQC）は6施設未満の集団の統計処理、および目標値の設定が不可能である。そのため、方法別および試薬別に目標値を設定した項目で6施設未満の場合は評価を「施設別報告書」に反映させさせることが不可能であることから「対象外」の表記になる。ご不便をおかけすることをお詫びするとともに、目標値を参考に自施設の正確度の判断をお願いしたい。

血球計数検査（CBC）については項目別統計において機種間差を含んだ上で各項目の CV は評価基準内に収まっており、全体的に良好な収束を示した。評価基準を変更した血小板数においては、評価Bの施設

が前回の2施設から10施設へ増加した結果となった。機種別統計では概ね各機種の目標値に近似した報告値となり、良好な収束がみられた。ただ、今年度も血小板数および白血球数において、入力桁数間違いと思われる2施設が評価Dであった。報告値入力に際しては、十分に注意していただきたい。

微生物検査（同定）については試料Aでは「*Salmonella* sp.」を正解とし、正解数は62施設（94%）となった。試料Bでは「*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis*」及び「C群β-*Streptococcus*」を正解、「*Streptococcus* sp.」を許容正解とし、正解数は60施設（95%）となった。

例年、性状確認試験において、グラム染色の誤記載など同定された菌種と整合性が合わない結果を回答している例がみられる。得られた結果について、結果報告の前に成書等による確認やダブルチェックするなど、十分な確認をお願いする。

微生物検査（薬剤感受性試験）ではCLSI M100-S22における *Streptococcus pneumoniae* に対する薬剤感受性試験の精度管理株を用いて、髄液検体でのPCG、MEPM、VCMの薬剤感受性試験の調査を行った。*Streptococcus pneumoniae* はペニシリン系、セフェム系薬剤で髄膜炎、非髄膜炎によって判定基準が異なるものがある。さらに、経口薬の判定基準も別に設定されている（髄液由来株以外で報告可能）。しかし、微量液体希釈法の10.6%で髄膜炎以外の判定基準を使用されている施設があった。該当する施設においては判定基準の見直しをお願いしたい。また、ディスク拡散法では判定基準が設けられていない薬剤があるが、MEPMにおいてSと回答されている施設があった。ディスク拡散法での回答は全体の4.3~6.1%であったが、微量液体希釈法への切り替えが望まれる。

例年同様、試薬の選択間違いをしているため選択試薬と結果の整合性が合わない施設が見受けられた。本来であれば評価対象外となるが、システムの都合上本調査では該当施設に確認後、正しい試薬に変換し集計を行った。また、不等号の選択間違いも見受けられた。結果報告の前にダブルチェックなどでの確認を徹底していただきたい。

一般検査（フォトサーベイ）については尿沈渣検査法2010で示されている円柱の判定についての設問を作成した。複数種類の成分を封入した円柱は、3個以上封入している場合（卵円形脂肪体は1個以上）はそれぞれの成分円柱として判定し報告する必要がある。判定基準を再度確認いただきたい。また、円柱内の成分については尿細管上皮細胞と白血球との鑑別が難しいことがある。尿細管上皮細胞は大きさが揃っていないことが多く、大ききの揃っている白血球との鑑別ポイントになる。また白血球の場合は、細胞同士の境界が不明瞭であることが多い点もポイントとなる。

本年は髄液細胞の算定について2年目の出題となった。外部精度管理として毎年出題してほしいとの要望が寄せられているため、今後も継続して出題する予定である。髄膜炎は非常に重篤な状態となり得る疾患であるので、髄液細胞分類はどの施設でも検査が出来る態勢を整えていただきたい。

寄生虫検査について、検査件数は施設により様々ではあるが、外部委託する場合でも目的とする検査法によって保存法や提出方法が違うため、どの施設でもいざという時の準備と知識の保持に努めていただきたい。

4. 生涯教育

近藤 善仁

各検査研究班・各支部担当者にご尽力いただき、行事登録および参加者登録を行ってもらった。昨年同様、長引くコロナ禍によりweb研修会が主流であったが、企画担当者及び参加者双方がwebツール等に慣れたことにより特に大きなトラブルはなかった。web研修会の生涯教育登録は開催後に事前登録とwebのログを確認する作業が発生するので、実施にあたって関係各位に感謝したい。尚、日臨技より支給される「生涯教育推進研修会助成金」の交付額は、11研修会が対象となり、計540,000円を受け取ることができた。

今年度も、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの運営を軸に全会員にリアルタイムに情報の提供が出来るよう心がけて運営をしてきた。ホームページは即時に会員にお知らせできる事から、有益な情報をできるだけ早く掲載することに努めた。また、昨年に引き続き文書発送についてシステムを用いて、メールにて各施設に理事会終了後に発行する新臨技ニュース・各種案内や文書を発信し、即時性を重視し情報発信を行ってきた。会誌に関しても、研修会、学会の開催が難しい中、Web研修会の内容や認定技師制度紹介、施設紹介など会員に親しみやすい内容から、学術的な内容まで幅広い内容の会誌発行を務めてきた。

1) 新臨技会誌

神林 真弓

〔講義・研究〕基礎的な内容から最新の情報まで幅広い分野において掲載した。

〔研修会報告〕今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のためWebを用いた研修会等が多く、参加報告執筆依頼が難しいために件数は減ってしまったが参加した会員の協力を得て、講義内容をお伝えできる頁とした。

〔認定技師制度紹介〕臨床検査技師に関わる様々な認定資格を紹介し、スキルアップに繋がる情報を提供した。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

日々の出来事や趣味の話など投稿できるペンリレー、職場での活躍ぶりや日々の頑張りが伝わる奮闘記、そして新しく会員になられた方々の紹介を掲載することで会員同士の繋がりをつくる頁とした。

〔公益活動参加報告〕コロナ禍にてほとんどの公益活動は中止となったが、全国検査と健康展は様式や参加スタッフ数を減らして開催し、その時の様子を写真とともに掲載することができた。

〔施設紹介〕様々な施設の紹介をすることで、施設情報の共有を図った。

〔学会参加報告〕初めて学会発表をした会員に感想やプロセスを含めた報告書を執筆していただき、これから発表を考えている方の参考にしていただけるよう努めた。

年4回 季刊発行（319号から322号まで）

〈令和3年度会誌掲載内容〉

319号 令和3年4月1日

〔講義〕

HbA1c 測定の再考～変異ヘモグロビンを中心とした変動要因について～

片瀬 優子

HPV ワクチンの現状－有効性と安全性－

工藤 梨沙、関根 正幸、山口真奈子、黒澤めぐみ、安達 聡介、榎本 隆之

〔篠川 至賞とは〕篠川 至賞について

坂西 清

〔お知らせ〕第94回臨床検査学会について（予告）

〔研修会参加報告〕

第1回「新型コロナウイルスに関するPCR実技研修」

井野恵理花

令和2年度第1回新潟支部研修会に参加して

渡部 愛

新型コロナウイルス感染症の診断を目的としたPCR検査のための鼻咽頭拭い液の採取に関する研修会について

高原 瞳

〔施設紹介〕JA新潟厚生連 村上総合病院

渡辺 直樹

〔ペンリレー〕

三浦 駿

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

鷲尾 翔太、小池 美鈴、伊藤千香子、瀬川 まこ、林 高憲、市橋あゆみ

〔会報〕

令和3年度通常総会議案書

2020年度（令和2年度）Zoomによる第5回理事会議事録

2020年度（令和2年度）Zoomによる12月常任理事会議事録

2020年度（令和2年度）Zoomによる第6回理事会議事録

新入会員紹介

新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

320号 令和3年7月1日

〔あいさつ〕 会長就任のあいさつ

渡邊 博昭

〔講義〕 感染対策の基本 標準予防策

寺川 香純

〔研究〕 Flash Glucose monitoring system の動物実験への応用

阿部 拓也、藤井 豊、川村 宏樹、久保野勝男、長濱 大輔、渡邊 博昭

〔受賞者の言葉〕

篠川至賞を受賞して

桑原喜久男

生涯教育新人賞を受賞して

川上 俊朗

〔研修会参加報告〕

令和2年度輸血細胞治療部門研修会

花澤 夏芽

上越支部春季研修会に参加して

須貝 咲奈

第1回新潟支部研修会に参加して

笹川 綾

令和2年度 中越支部講演会「R-CPC～検査データの見かた～」

桃井真理恵

令和2年度 病理細胞部門研修会に参加して

戸田裕一郎

令和2年度 臨床微生物部門研修会に参加して

土田 純也

〔施設紹介〕 一般社団法人新潟県健康管理協会

土屋 則子

〔認定技師制度紹介〕 日本睡眠学会認定検査技師を受験して

霜田由美子

〔ペンリレー〕

涌井 萌香

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

秋山 ゆり、永原 俊希、井野恵理花、池田 奈央、及川 綾花

〔会報〕

令和2年度 監査報告

令和2年度 公益目的支出計画実施報告書

令和3年度通常総会からのアンケート

2020年度（令和2年度）Zoomによる第7回理事会議事録

2020年度（令和2年度）Zoomによる第8回理事会議事録

新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

321号 令和3年10月1日

〔講義〕

呼吸機能検査ガイドラインより、測定原理から日々の精度管理と検査について

フクダ電子株式会社 仁田原 武

IGRA（インターフェロン γ 遊離試験）

新潟県立新発田病院 呼吸器内科 阿部静太郎

〔案内〕第94回新潟県臨床検査学会

〔研究〕第94回新潟県臨床検査学会抄録

〔受賞者の言葉〕篠川至賞を受賞して

JA 新潟厚生連 佐渡総合病院 三好 孝史

〔特別寄稿〕

医療界のパラダイムシフト

山口 勇司

医師の働き方改革を受けて臨床検査技師に求められるタスクシフトについて

桑原喜久男

〔研修会参加報告〕

令和3年度臨床検査総合部門救急検査分野研修会に参加して

本間咲緒里

令和3年度新潟県臨床検査技師会 施設運営管理者協議会に参加して

樋口 順子

〔施設紹介〕新潟市民病院

渡辺 二美

〔認定技師制度紹介〕細胞検査士について

大橋 孝宏

〔ペンリレー〕

阿部 愛

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

花澤 夏芽、磯貝 真那、中澤 和希、本間 千智、野口 芽衣、堀川 怜那

〔会報〕

2021年度（令和3年度）Zoomによる第1回理事会議事録

2021年度（令和3年度）Zoomによる第2回理事会議事録

2021年度（令和3年度）Zoomによる第3回理事会議事録

新入会員紹介

新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

322号 令和4年1月1日

〔あいさつ〕年頭のご挨拶

渡邊 博昭

〔講義〕

COVID-19重症化メカニズムと関連マーカーについて

川手 康德

循環器領域における超音波技術の進化

小倉 貴之

〔公益事業参加報告〕全国「検査と健康展」に参加して

角谷 勇氣

〔第94回新潟県臨床検査学会 特集〕

第94回新潟県臨床検査学会テーマ賞を受賞して

高橋 佑生

初めて学会発表してみよう

馬場 健太、川村 梨紗、小熊 裕弥、鈴木 里奈

第94回新潟県臨床検査学会に参加して

鎌田真由美、諸橋 学、坂内 政紀、桐生さとみ

第94回新潟県臨床検査学会開催報告 実行委員長

田村 正史

〔研修会参加報告〕

令和3年度病理細胞部門研修会参加報告

大野 仁子

令和3年度 染色体・遺伝子部門研修会に参加して

土田 美紀

第1回新潟支部研修会に参加して
〔施設紹介〕 NHO さいがた医療センター
〔ペンリレー〕

柳沢 悦子
水澤 望
関 俊輔

〔検査技師として～私の奮闘記～〕 松崎菜々子、石井 唯奈、渡邊 杏菜、林 真梨瀬、齋藤 美咲
〔会報〕

2021年度（令和3年度）Zoomによる8月常任理事会議事録

2021年度（令和3年度）Zoomによる第4回理事会議事録

2021年度（令和3年度）Zoomによる10月常任理事会議事録

新入会員紹介

新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

2) 新臨技ニュース

佐藤 卓

理事会議事要旨、連絡事項、求人情報など速報性・実用性のある情報を掲載してきた。またメール文書配信システム導入に伴いより迅速に各施設に届くように努めてきた。発行は理事会終了後の月1回とした。

3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。昨年度に続き新型コロナウイルス感染拡大の中ではあったが、会員へ有益な情報があればトピックス等に掲載するよう心がけた。また、タスク・シフト/シェア関連の情報も随時掲載を行った。新潟県臨床検査技師会施設運営管理者協議会発足にあたり、連絡用メールアドレスの登録ページを作成した。こちらの登録フォームは新規登録や登録内容変更、配信中止など引き続き運用していく。

【主要行動報告】

1. 4月10日 第1回理事会
2. 5月11日 ピンクリボンホリデー実行委員会へ五十嵐理事出席（Web）
3. 5月14日 第1回表彰委員会（Web）
4. 5月22日 北日本支部タスクシフト説明会（Web）渡邊会長、桑原副会長出席
5. 5月28日 篠川至賞選考委員会
6. 5月29日 令和3年度学術部会議（Web）
7. 5月30日 令和3年度通常総会
8. 6月12日 第2回理事会（Web）
9. 6月14日 ワクチン接種の経緯説明会（日臨技）へ桑原副会長出席（Web）
10. 6月15日 ワクチン接種の経緯説明会（日臨技）へ渡邊会長、畔上副会長、小柳事務局長出席（Web）
11. 6月26日 日本臨床衛生検査技師会令和3年度定時総会へ桑原副会長出席
12. 6月29日 新潟県乳がん検討委員会企画委員会・新潟はっぴー乳ライフ実行委員会
合同会議へ小丸理事出席（Web）
13. 7月10日 第3回理事会（Web）
14. 7月17日 日臨技理事会へ桑原副会長出席（Web）
15. 7月28日 ワクチン接種の打ち合わせ（新潟市）に渡邊会長、畔上副会長、田端副会長、
小柳事務局長出席

16. 7月31日 第1回新潟県臨床検査学会 WG 開催 (Web)
17. 8月1日 施設運営管理者協議会開催
18. 8月3日 第1回臨床検査精度管理協議会へ佐藤事務局次長、伊藤理事出席
19. 8月17日 日臨技理事会 (第3回) へ桑原副会長出席
20. 8月28日 8月常任理事会
21. 9月17日 日臨技理事会事前レクへ桑原副会長出席
22. 9月25日 第4回理事会 (Web)
23. 10月9日 県学会第2回 WG 開催
24. 10月16日 10月常任理事会
25. 11月13日 第8回新潟県糖尿病対策推進会議総会へ星山理事出席
26. 11月14日 第5回理事会
27. 11月25日 日臨技「災害対策支援規程」説明会 (Web) へ田端副会長出席
28. 12月4日 第94回新潟県臨床検査学会
29. 12月14日 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ小丸理事出席
31. 1月13日 新潟県生活習慣病検診等管理指導協会 循環器等検診部会 (Web) へ渡邊会長出席
32. 1月26日 第2回新潟県精度管理協議会へ佐藤事務局次長出席
33. 1月30日 第6回理事会
34. 2月23日 新潟支部総会へ畔上副会長出席
35. 2月26日 佐渡支部総会へ渡邊会長出席 (Web)
36. 2月26日 上越支部総会へ田端副会長出席 (Web)
37. 3月1日 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会合同会議 (Web) へ小丸理事出席
38. 3月3日 新潟県検診精度管理調査委員会へ渡邊会長出席
39. 3月5日 第7回地域ニューリーダー育成研修会 (Web) へ寺島理事出席
40. 3月5日 中越支部総会に桑原副会長出席
41. 3月12日 第7回理事会
42. 3月12日 日臨技第4回役員候補者選出委員会 (Web) へ寺島理事出席
43. 3月25日 第13回新潟県救急搬送受入協議会へ田中理事出席

事業報告に関わる附属明細書

事業報告を補足する事項はない。

令和3年度収支決算報告

貸借対照表

令和4年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	958,878	9,243,578	△ 8,284,700
前払金	0	24,081	△ 24,081
未収金	0	911,158	△ 911,158
流動資産合計	958,878	10,178,817	△ 9,219,939
2. 固定資産			
会館建設引当預金	14,768,000	15,268,000	△ 500,000
共済基金	1,724,000	1,724,000	0
篠川至賞基金	11,105,286	11,105,166	120
固定資産合計	27,597,286	28,097,166	△ 499,880
資産合計	28,556,164	38,275,983	△ 9,719,819
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	0	8,131,500	△ 8,131,500
流動負債合計	0	8,131,500	△ 8,131,500
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	0	8,131,500	△ 8,131,500
III. 正味財産の部			
一般正味財産	28,556,164	30,144,483	△ 1,588,319
(うち特定資産への充当額)	(27,597,286)	(28,097,166)	(△ 499,880)
負債及び正味財産合計	28,556,164	38,275,983	△ 9,719,819

正味財産増減計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	8,830,000	8,804,500	25,500
正会員受取会費	7,590,000	7,584,500	5,500
賛助会員受取会費	1,240,000	1,220,000	20,000
事業収益	1,566,000	1,591,158	△ 25,158
参加費収益	336,000	0	336,000
会誌広告収益	1,230,000	680,000	550,000
受託事業収益	0	911,158	△ 911,158
受取補助金等	1,280,450	560,600	719,850
受取民間助成金	1,280,450	560,600	719,850
雑収益	49,590	1,296	48,294
受取利息	19,590	1,296	18,294
協賛金収益	0	0	0
雑収益	30,000	0	30,000
経常収益計	11,726,040	10,957,554	768,486
(2) 経常費用			
事業費	9,046,343	5,716,209	3,330,134
学会費	1,645,412	756	1,644,656
運営費	443,920	888,418	△ 444,498
学術部活動費	1,260,351	886,919	373,432
学術雑費	76,970	50,443	26,527
臨床検査精度保証費	311,068	285,678	25,390
会誌発行費	3,580,571	2,601,588	978,983
広報編集費	823,820	438,308	385,512
組織広報費	321,740	7,000	314,740
災害対策費	3,000	0	3,000
生涯教育表彰事業費	77,566	55,174	22,392
組織強化費	501,925	501,925	0
管理費	4,268,016	2,938,144	1,329,872
備品費	294,504	48,840	245,664
消耗品費	89,956	45,699	44,257
印刷費	184,010	118,059	65,951
通信費	455,754	249,968	205,786
交通費	0	0	0
渉外対策費	146,400	55,655	90,745
給料手当	602,000	498,000	104,000
会議旅費	866,960	453,000	413,960

科 目	当年度	前年度	増減
事務所維持管理費	1,168,740	1,194,601	△ 25,861
電話費	82,252	82,082	170
事務所雑費	4,037	1,741	2,296
交際費	119,700	33,065	86,635
総会費	253,703	157,434	96,269
雑費	0	0	0
経常費用計	13,314,359	8,654,353	4,660,006
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,588,319	2,303,201	△ 3,891,520
基本財産評価損益等			0
特定資産評価損益等			0
投資有価証券評価損益等			0
評価損益等計			0
当期経常増減額	△ 1,588,319	2,303,201	△ 3,891,520
2. 経常外増減の部			0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額			0
当期一般正味財産増減額	△ 1,588,319	2,303,201	△ 3,891,520
一般正味財産期首残高	30,144,483	27,841,282	2,303,201
一般正味財産期末残高	28,556,164	30,144,483	△ 1,588,319
II 指定正味財産増減の部			0
III 正味財産期末残高	28,556,164	30,144,483	△ 1,588,319

財 産 目 録

令和4年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金	204,584
普通預金	
第四北越銀行臨港支店	698,513
ゆうちょ銀行	55,781
前払金	0
未収金	0
流動資産合計	958,878
2. 固定資産	
会館建設引当預金	
第四北越銀行臨港支店（定期4口）	10,000,000
ゆうちょ銀行（定額4口）	4,768,000
共済基金	
ゆうちょ銀行（定額3口）	1,724,000
篠川至賞基金	
第四北越銀行県庁支店（定期3口）	5,004,286
ゆうちょ銀行（定額2口）	5,101,000
ゆうちょ銀行（通常）	1,000,000
固定資産合計	27,597,286
資産合計	28,556,164
II. 負債の部	
1. 流動負債	
前受金	0
流動負債合計	0
2. 固定負債	0
固定負債合計	0
負債合計	0
正味財産合計	28,556,164

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	-	-	-	-
特定資産				
会館建設引当預金	15,268,000		500,000	14,768,000
共済基金	1,724,000	-		1,724,000
篠川至賞基金	11,105,166	120		11,105,286
小 計	28,097,166	120	500,000	27,597,286
合 計	28,097,166	120	500,000	27,597,286

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
小 計	-	-	(-)	-
特定資産				
会館建設引当預金	14,768,000	-	(14,768,000)	-
共済基金	1,724,000	-	(1,724,000)	-
篠川至賞基金	11,105,286	-	(11,105,286)	-
小 計	27,597,286	-	(27,597,286)	(-)
合 計	27,597,286	-	(27,597,286)	(-)

4. 助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
助成金						
受取検査学会研修助成金	日本臨床衛生検査技師会	0	1,080,450	1,080,450	0	
受取臨床検査精度保証助成金	新潟県医師会	0	200,000	200,000	0	
合 計		0	1,280,450	1,280,450	0	

計算書類に係わる附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記2「基本財産及び特定資産の増減及びその残高」及び注記3「基本財産及び特定資産の財源等の内訳」に記載しているため省略する。

【上越支部】

〈支部研修会〉

1 秋季研修会：第117回上越支部研修会（Web 開催）

日時：令和3年9月11日（土）Zoomを使用したWeb開催

講演1「亜鉛の有用性について」

株式会社シノテスト R & Dセンター 生化学ユニット 中尾 友作 先生

講演2「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と血栓症」

積水メディカル株式会社 須長 宏行 先生

参加者42名（上越支部会員：39名 他支部：3名）

2 春期研修会：第118回上越支部研修会（Web 開催）

日時：令和4年2月26日（土）Zoomを使用したWeb開催

講演「臨床検査技師にとってのタスクシフト ～その背景と今後に向けた考え方～」

シーメンズヘルスケア株式会社 M & S 本部マーケティング&エデュケーション部 松尾 久昭 先生

参加者：35名

〈令和3年度通常総会〉

日時：令和4年2月26日（土）

ZoomによるWeb開催

〈研究班活動〉

1 検体検査研究班（臨床化学・微生物部門）

令和2・3年度班長：県立中央病院 石田 櫻子

令和3年11月18日（木）

「免疫検査（発光法）の測定原理、非特異反応について」

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社シニアアドバイザー 江川 孝則 先生

参加者：30名

2 形態検査研究班（血液・血清・病理・一般部門）

令和2・3年度班長：糸魚川総合病院 水落 幸希

令和3年10月19日（火）

「尿沈渣検査の基礎」

シスメックス株式会社北関東支店 学術サポート課 村上 拓志 先生

参加者：53名

3 生理検査研究班（生理検査部門）

令和2・3年度班長：県立中央病院 大山 葵

令和3年11月29日

「ホルター心電図解析について」

日本メドトロニック株式会社 山田 健史 先生

参加者：44名

〈地域保健活動〉

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催がなかった。

〈広報活動〉（上越支部会員向け）

支部だよりを第222号から第224号まで計3回発行した。

〈役員会議〉

2021年（令和3年）

- 5月13日（木）定例役員会
- 6月17日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 7月20日（火）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 8月19日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 9月11日（土）定例役員会（秋季研修会時に対面形式にて）
- 10月14日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 11月16日（火）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 12月21日（火）定例役員会（ZoomによるWeb開催）

2022年（令和4年）

- 1月25日（火）定例役員会（ZoomによるWeb開催）

【中越支部】

〈学術〉

- 1) 令和3年度中越支部フォーラム [生涯教育認定 基礎20 参加 41名]

日時：令和3年9月4日（土）14：00～16：30

開催形式：Zoomを用いたWeb開催

講演1 『新型コロナウイルス抗体検査の意義とワクチン接種等に関する最新の話題』

【講師】アポット・ジャパン合同会社 診断薬 機器事業部セールステクニカル
ソリューション部学術情報室マネジャー 村上 聡 先生

講演2 『COVID-19重症化メカニズムと関連マーカーについて』

【講師】シスメックス株式会社 学術本部 学術研究部 川手 康德 先生

- 2) 令和3年度中越支部講演会 [生涯教育認定 専門20 参加 63名]

日時：令和4年3月5日（土）14：00～15：10

開催形式：Zoomを用いたWeb開催

講演『臨床検査と薬剤』

【講師】新潟南病院 渡部 学先生

〈学術支援事業〉

研修会開催の目的がたたず、学術支援の申し込みはなかった。

各種研究会や同好会など研修会開催を計画している団体に声をかけてもらいたい。

〈組織〉

- 1) 令和3年度中越支部通常総会 [生涯教育認定 基礎30 参加 26名]

日時：令和4年3月5日 15：20～16：00

開催形式：Zoomを用いたWeb開催

また例年多くの公益事業に参加しているが、令和3年度多くのイベントは非開催となった。規模を大幅に縮小しての開催イベントについても感染回避の行動方針に従い参加を辞退した。

〈広報〉

県技師会のホームページに支部開催研修会等の最新情報を掲載した。サイト上の支部ページも随時更新し、今年度は支部会誌「やまあい」第135号、136号を発行した。

〈令和3年度会議録〉

第1回理事会 令和3年4月24日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】

議題：支部理事担当業務・県理事選出について

支部研修会開催について

今年度公益事業参加予定について

第2回理事会 令和3年5月22日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】

議題：支部研修会開催について

今年度公益事業参加予定について

第3回理事会 令和3年6月26日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】

議題：Web研修会、Web会議開催について

今後の支部理事会開催方法について

第4回理事会 令和3年7月25日(日) 【メール審議】

議題：Web研修会進捗について

今年度公益事業開催予定と参加可否について

第5回理事会 令和3年8月26日(土) 【メール審議】

議題：Web研修会進捗と企画・運営方針について

今年度公益事業への不参加決定と今後の方針について

第6回理事会 令和3年9月18日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】

議題：支部フォーラム開催報告と今後のWeb研修会について

自然災害による被害への対応について

第7回理事会 令和3年10月23日(土) 【メール審議】

議題：今後のWeb研修会の企画・運営について

支部講演会・総会開催について

第8回理事会 令和3年11月20日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】

議題：支部講演会・総会進捗について

来年度公益事業への参加について

第9回理事会 令和3年12月25日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】

議題：支部講演会・総会開催に向けた役割分担について

次年度支部研修会開催について

第10回理事会 令和4年1月29日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】

議題：中越支部講演会・通常総会開催に向けた進捗について

次年度支部研修会開催について

第11回理事会 令和4年2月26日(土) 【メール審議】

議題：中越支部講演会・通常総会開催に向けた進捗について

次年度支部研修会開催について

第12回理事会 令和4年3月26日(土) 【メール審議】

議題：中越支部講演会・通常総会開催報告

令和4年度の支部事業計画について

【下越支部】

〈研修会等〉

(1) 第1回支部研修会 (Web開催)

日時：令和3年10月2日(土) 14:00~16:10

場所：各施設、自宅等

内容：「血液ガス分析 酸塩基平衡のデータの見方」

講師 ラジオメーター株式会社 長谷川 剛 先生

「生化学自動分析装置による電解質測定について」

講師 (株)日立ハイテク 天神 果林 先生

参加者：64名(会員64名)

生涯教育認定 専門 20点

(2) 第2回支部研修会 (Web開催)

日時：令和4年3月12日(土) 14:00~15:40

場所：各施設、自宅等

内容：「尿定性検査・尿沈渣検査の基礎」

講師 シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

池上 孝徳 先生

参加者：59名(会員59名)

生涯教育認定 専門 20点

(3) 下越支部総会 (議決権行使書)

日時：令和4年3月12日(土) 15:40~16:00

場所：(一財)下越総合健康開発センター 2階 大講堂

〈下越支部理事会〉

第1回：3月23日 下越総合健康開発センター

第2回：4月30日 (Web会議)

第3回：5月19日 (Web会議)

第4回：6月16日 (Web会議)

第5回：7月14日 (Web会議)

第6回：9月15日 (Web会議)

第7回：10月20日 (Web会議)

第8回：11月17日 (Web会議)

第9回：12月15日 (Web会議)

第10回：1月19日 (Web会議)

第11回：2月16日 (Web会議)

〈ホームページ〉

下越支部ホームページについては研修会の案内、参加報告など更新した。

【佐渡支部】

〈研修会等〉

1) 研修会

日時：令和4年2月26日（土）13：30～（Zoom入室は13：00～）

会場：ZoomによるWeb研修

内容：採血手技・採血管取扱いが血液検査値に与える影響

講師：積水メディカル株式会社 須長 宏行 先生

生涯教育ポイント 専門20点 会員参加 54名

2) 支部総会

日時：令和4年2月26日（土）14：40～

会場：ZoomによるWeb開催

生涯教育ポイント 基礎30点 会員参加 30名

〈公益事業〉

COVID-19の影響により、例年行われている島内の公益事業は中止。

〈支部役員会〉

第1回理事会 令和4年1月13日（木）佐渡総合病院 検査技師室

議題：支部研修会・総会の開催について

【新潟支部】

【令和2年度第2回新潟支部研修会（現地+Web開催）】2021/2/20

参加人数：60名

- ① 遭遇する可能性のある凝固検査の異常値からCOVID-19の血栓症まで
須長 宏行（積水メディカル株式会社）
- ② 4スタンス理論でアンチエイジング ～肩こり・腰痛にさようなら～
石黒 卓朗（新潟県立がんセンター新潟病院）

【令和3年度第1回新潟支部研修会（Web開催）】2021/11/13

参加人数：47名

人を惹きつける話し方 上村 知世（エフエムラジオ新潟）

（臨床化学検査研究班）

なし

（血液検査研究班）

【令和3年度臨床血液部門研修会（新潟支部合同）（Web開催）】2022/1/15

参加人数：75名

末梢血における血液像観察のポイント 新保 敬（獨協医科大学病院）

（生理研究班）

【令和3年度生理研究班研修会（Web開催）】2022/1/16

参加人数：34名

コロナ禍における生理検査室の現状 情野 千文（東北大学病院）

後藤 寛昭（東京大学医学部付属病院）

(一般検査研究班)

【第48回新潟支部一般検査研修会(現地開催)】(複数開催)

超初心者向け① 2021/4/18 参加人数:11名

超初心者向け② 2021/5/9 参加人数:17名

初心者① 2021/5/30 参加人数:13名

初心者② 2021/6/13 参加人数:12名

尿沈渣検査法を学ぶ ホントの初心者

- ①標本作製と顕微鏡の使い方 白川千恵子(新潟医療技術専門学校)
- ②非上皮系細胞について 伊藤千香子(済生会新潟病院)
- ③カウント方法 小野 篤史(済生会新潟病院)
- ④上皮細胞について 深谷 響己(新潟大学医歯学総合病院)
- ⑤円柱・結晶について 高橋 佳乃(新潟南病院)

【第49回新潟支部一般検査研修会(現地開催)】2021/9/26

参加人数:10名

尿沈渣標本をちょっと保存してみませんか?

- ①標本作製方法について 白川千恵子(新潟医療技術専門学校)
小野 篤史(済生会新潟病院)
- ②オーションアイの説明 (アークレイマーケティング株式会社)
- ③標本観察 深谷 響己(新潟大学医歯学総合病院)
高橋 佳乃(新潟南病院)
伊藤千香子(済生会新潟病院)

(病理検査研究班)

【第42回 新潟病理技術研究会(Web開催)】(新臨技病理部門共催)2022/01/22

参加人数:81名

①あなたの施設の薄切 見せてください

新潟大学臨床病理学、がんセンター新潟病院、市民病院、済生会新潟病院

②薄切時に起きる現象と対策 山本 竜一(大和光機工業株式会社)

③替刃の種類と有効な使い方 門之園 寛(フェザー安全剃刀株式会社)

④薄切の標準化と精度管理への試み

青木 裕志(順天堂大学医学部付属練間病院)

(細菌検査研究班)

【第131回新潟支部微生物研究会(Web開催)】2021/11/11

参加人数:25名

AMR 対策における薬剤耐性菌検査の動向～グラム陰性桿菌を中心に～

藤本 真暢(関東化学株式会社)

(公益活動、その他)

【令和2年度一般社団法人新潟県臨床検査技師会新潟支部総会】2021/2/20

参加人数:33名

総会及び幹事会

1) 支部定期総会・第1回 新潟支部幹事会

令和3年2月20日(土) 新潟県立がんセンター新潟病院 講堂 + Zoom を用いたオンライン会議

2) 第2回 新潟支部幹事会

令和3年3月24日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom を用いたオンライン会議

3) 第3回 新潟支部幹事会

令和3年4月14日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom を用いたオンライン会議

4) 第4回 新潟支部幹事会

令和3年6月16日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom を用いたオンライン会議

5) 第5回 新潟支部幹事会

令和3年7月14日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom を用いたオンライン会議

6) 第6回 新潟支部幹事会

令和3年9月8日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom を用いたオンライン会議

7) 第7回 新潟支部幹事会

令和3年10月6日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom を用いたオンライン会議

8) 第8回 新潟支部幹事会

令和3年11月24日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所

9) 第9回 新潟支部幹事会

令和4年2月9日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom を用いたオンライン会議

第3号議案

監査報告について

第4号議案

支部提出議案について

各支部からの提出議案はなかった。

第5号議案

日臨技定時総会提出議案について

日臨技定時総会への提出議案はなかった。

令和4年度事業計画

会長

渡邊 博昭

令和4年度は役員任期後期であり、基本的には事業をそのまま引き継ぎ、新しい生活様式に対応した技師会活動を試行錯誤しながら検討を進め、とどこおりなく会務を遂行する。

新規または重要な事業を下記の通り計画する。

総務部

- ① 引き続き規定および手順書の検証をする。
- ② リモートでの会議および研修会等の運営を充実させる。

学術部

- ① 第95回新潟県臨床検査学会の企画・運営を行う。
- ② ニュージーリーダーの育成や職能向上・職能開発、認知症検査に関わる講習会を開催する。
- ③ タスク・シフティングに伴う講習会の準備を行う。
- ④ 検査研究部門活動の助成金申請制度を20研修会申請する。

広報部

- ① ホームページのさらなる充実を図る。

1. 通常総会の開催

新型コロナウイルス感染の動向を見極めながら、実施していく。また、通常総会と同時開催する臨床検査セミナーは、技師会事業として定着していたが、新型コロナウイルス感染拡大の動向を見極めながら開催を検討する。

2. 会務の執行体制

令和4年度においては円滑な業務運営を進めるためにも、各種規定・マニュアル等の周知に努めたい。また、活動の要である事務局機能は各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

3. 諸会議の開催

1) 理事会・常任理事会

新型コロナウイルス感染拡大防止を図りつつ連携を密にするために、会議方法はZoomによるWEB開催を実施していき、総会に次ぐ議決機関として理事会・常任理事会を開催したい。

2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営して行きたい。

4. 組織対策

1) 入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。また、臨床検査技師のさらなる地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進に積極的に働きかけていく。

2) 各支部との連携

各支部持ち回りの新潟県臨床検査学会開催については、会場確保および参加人数等の問題もあり、第91回から新潟市で開催している。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りつつ、学術部と支部との連携を強化するとともに、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

3) 会員施設との連携強化

施設運営管理者協議会を1年に1回開催していき、新臨技・日臨技の事業説明等の理解を図りながら各施設の意見を吸い上げ、新臨技活動につなげたい。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて現地開催+WEBによるハイブリッド形式で開催したが、次年度以降も多くの施設運営管理者からの出席を図るため、ハイブリッド形式による開催を目指したい。また、本協議会の運営を強化するためにも施設運営管理者協議会の広報を進め、各施設からの登録をお願いしていく。

5. 地域保健医療活動および公益事業

令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大が想定されるため、各団体の動向を見極めながらとなるが、一般社団法人として県民の保健・医療・公衆衛生の更なる向上を目指していく。臨床検査技師として、社会貢献の取り組み、全国検査と健康展など日臨技事業の開催、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画していけるよう努める。

6. 求人情報

会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

7. 災害関係

災害時の支援活動に威力を発揮するためにも、災害支援マニュアル整備に努める。

8. 表彰関係

1) 第40回篠川至賞

令和4年度で第40回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中から篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力いただき、各支部からの積極的な推薦のうえ表彰する。

2) 令和3年度功労者表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰する。

3) 名誉会員

新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰する。

4) 令和3年度生涯教育履修表彰

奨励賞では多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求め、分野に関わらず最多得点者の上位3名を表彰する。また、生涯教育新人賞では臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

5) 学会表彰

新潟県臨床検査学会で優秀な演題発表をした者を表彰する。

6) その他

各団体の表彰の基準に該当する者については積極的に推薦をしていく。

学術部

副会長 桑原喜久男

令和4年度も検査研究部門活動、新潟県臨床検査学会、生涯教育活動を中心として活動を進める。第95回新潟県臨床検査学会を令和4年12月18日（日）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催を予定している。新型コロナウイルス感染症拡大の状況をみながら、開催形式を検討していきたい。検査研究部門は新型コロナウイルス感染症の状況をみながら現地開催とするのか、Webでの開催とするのか判断をしながらニーズや臨床検査技師を取り巻く社会の変化に対応できる知識、スキルを学ぶ機会を設け、情報を共有できる研修会を企画、運営していく。生涯教育事業においては日臨技の生涯教育推進事業の20研修会を到達できるよう検査研究部門長や支部長と連携を図りながら業務を進める。

1. 学会

桑原喜久男

第94回新潟県臨床検査学会を令和4年12月18日（日）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催を予定している。一般演題、教育講演、特別企画を開催予定であるが、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、開催形式を検討していきたい。

2. 検査研究部門

中村 岳史

検査研究部門が企画運営する研修会は、技師会における重要な活動の一つである。医療制度や検査技術が、日々変化していく医療現場においては新たな知識や技術を習得し実践していくことが極めて重要である。そのため、検査研究部門が企画運営する各種研修会が担う役割は大きい。

検査研究部門は、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門（神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野）、臨床検査総合部門（管理運営分野、救急検査分野、公衆衛生・生殖医療分野）の9部門6分野で構成され、各部

門の活動費は12万円、各分野は8万円とする。

研修会参加費は、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とする。

研修会開催は、オンライン研修会を基本とし新型コロナウイルス感染状況や日臨技の動向を踏まえた上で、実地開催や実技研修の開催について柔軟に対応する。オンライン研修会により、会員は比較的参加しやすい環境となっており、各部門複数回の研修会を開催できることを目指したい。

研修会の内容は、基礎的内容から専門性を高める内容など、様々な状況下にある会員に有益で魅力的な研修会をバランスよく開催できるよう体制を整え、企画運営にあたる。特に、技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会や他団体との共催による研修会を企画することを奨励する。

今年度も感染状況を注視しながら、幅広い知識や技術を習得できる、会員にとって魅力ある活発な学術活動を展開していきたい。

3. 精度管理事業

田端 篤

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。国会としては、地域医療への貢献と会員の技術向上という点から重要な事業であるという位置づけで積極的に協力していく。

2022年度も臨床化学、微生物、血球計算、血液フォトサーベイ、一般フォトサーベイをさらに充実させ実施を予定している。また臨床検査室精度保証認証制度・共用基準範囲についても多くの施設の理解が得られるよう啓発を進めていきたい。

4. 生涯教育

近藤 善仁

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援している。本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、現地開催やWeb研修会またはハイブリッド開催など社会状況に応じたベストな研修会を実施し生涯教育の登録を進めていく。日臨技情報総合システム(JAMTIS)の運用および「生涯教育推進研修会助成金」の申請と助成金受領の支援を引き続き図っていく。

広報部

副会長 田端 篤

2022年度も新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの3本柱での運営を通して会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また、ホームページの情報発信においては会員に有益な情報をいち早く提供していきたい。会誌においては学術的な内容を基本とする中で、様々な企画を取り入れながら会員に有益な情報を提供できる会誌を目指していきたい。県理事、各支部理事、会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させていきたい。

1) 新臨技会誌

神林 真弓

会誌発行は323号から326号までの年4回季刊発行を予定する。

〔講義・研究〕引き続き基礎から専門分野まで幅広く焦点を当てて掲載していきたい。

〔研修会参加報告〕今年度も参加会員の協力のもと、情報提供や会員の研鑽の頁としたい。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

会員同士の親睦をはかり、多くの方が参加できるツールとしたい。

〔公益活動報告〕安全に開催できるようになった時には是非参加させていただき、会員には公益活動の大切

さを知りボランティア活動にも参加していただけるよう働きかける頁としたい。

〔認定検査技師制度〕認定取得者からの経験談やアドバイスを掲載し、各種認定取得を目指している多くの会員を支援したい。

〔施設紹介〕臨床検査技師の活躍の場としてあらゆる地域の施設を紹介していきたい。

〔学会参加報告〕学会で発表することの意義や、当日までのプロセスなどを掲載し、これから発表を考えている人たちの参考となるような頁にしたい。

2) 新臨技ニュース

佐藤 卓

理事会議事録、連絡事項、求人情報など速報性・実用性のある内容を掲載していきたい。また、今後も広く会員に読まれるような読みやすいレイアウトを心がけたい。発行目安は月1回とし、理事会終了後、速やかに発行できるよう努めたい。

3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。昨今のスマートフォンの普及により、サイトへのアクセスも増加し、ページ内容への期待も増えている。今年度も新型コロナウイルスやタスク・シフト／シェアなどに代表される臨床検査を取り巻く環境変化について、会員に有益な情報をタイムリーに更新していきたい。また、メール文書配信システムや施設運営管理者協議会連絡用メールアドレスの登録フォームも引き続き運用していく。

令和4年度収支予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	前年予算額	増減	摘要
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	10,120,000	8,760,000	1,360,000	
正会員受取会費	8,840,000	7,480,000	1,360,000	1360名×6,500 (県会費5,500+支部会費1,000)
賛助会員受取会費	1,280,000	1,280,000	0	64社
事業収益	2,200,000	2,600,000	△ 400,000	
参加費収益	600,000	600,000	0	学会費300名×2000
会誌広告収益	600,000	1,000,000	△ 400,000	会誌広告
受託事業収益	1,000,000	1,000,000	0	新潟県
受取補助金等	1,200,000	1,200,000	0	
受取民間助成金	1,200,000	1,200,000	0	日臨技、医師会
雑収益	205,000	205,000	0	
受取利息	5,000	5,000	0	
協賛金収益	100,000	100,000	0	学会展示
雑収益	100,000	100,000	0	祝儀等
経常収益計	13,725,000	12,765,000	960,000	
(2) 経常費用				
事業費	12,730,000	12,270,000	460,000	
学会費	1,500,000	1,000,000	500,000	第95回新潟県学会
運営費	1,500,000	1,500,000	0	臨床検査セミナー、技師長会議、新型コロナ研修
学術部活動費	2,500,000	2,500,000	0	研究部門活動費
学術雑費	120,000	120,000	0	源泉徴収税等
臨床検査精度保証費	450,000	450,000	0	新潟県精度管理事業
会誌発行費	2,600,000	4,100,000	△ 1,500,000	会誌4号
広報編集費	800,000	700,000	100,000	広報委員会、HP維持管理費
組織広報費	900,000	900,000	0	各支部公益事業負担
災害対策費	200,000	200,000	0	
生涯教育表彰事業費	200,000	200,000	0	賞状作成費等
組織強化費	1,960,000	600,000	1,360,000	各支部助成金、支部費
管理費	5,280,000	5,180,000	100,000	
備品費	200,000	200,000	0	
消耗品費	100,000	100,000	0	文房具、封筒
印刷費	300,000	300,000	0	各種案内
通信費	500,000	500,000	0	案内発送
交通費	100,000	100,000	0	日臨技、北日本会議
渉外対策費	300,000	300,000	0	関連団体、支部対策
給料手当	650,000	650,000	0	事務職員

科 目	予算額	前年予算額	増減	摘要
会議旅費	800,000	800,000	0	理事会旅費
事務所維持管理費	1,750,000	1,750,000	0	賃貸料、電気代
電話費	120,000	120,000	0	
事務所雑費	30,000	30,000	0	
交際費	150,000	150,000	0	関連団体慶弔費
総会費	250,000	150,000	100,000	議決権行使書送料
雑費	30,000	30,000	0	
経常費用計	18,010,000	17,450,000	560,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,285,000	△ 4,685,000	400,000	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計	0	0		
当期経常増減額	△ 4,285,000	△ 4,685,000	400,000	
2. 経常外増減の部				
当期経常外増減額	0	0		
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	△ 4,285,000	△ 4,685,000	400,000	
一般正味財産期首残高	25,459,483	23,551,282	1,908,201	
一般正味財産期末残高	21,174,483	18,866,282	2,308,201	
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
Ⅲ 正味財産期末残高	21,174,483	18,866,282	2,308,201	

注1：短期借入金限度額1,000,000円

注2：債務負担額はない